



大会参加報告

2018 FISU World University Rowing Championship

(10th - 12th, August, 2018 Shanghai, China)

国際審判員 市川 愛

(滋賀県ボート協会)

1. はじめに

2018年8月10日(金)から8月12日(日)に、中国、上海で行われた2018 FISU World University Rowing Championship(世界大学選手権)に国際審判員として参加しましたのでご報告いたします。なお、昨年10月にシンガポールで行われたFISA審判員試験に合格して初めての国際大会参加でした。

2. 大会概要

(1) 大会日程

8月9日(木) 審判会議、開会式、代表者会議

8月10日(金) Preliminary、予選、敗者復活

8月11日(土) 敗者復活、準決勝

8月12日(日) 決勝、閉会式

(2) 種目

M1X, M2X, M2-, M4-, M8+, LM1X, LM2X, LM4-,

W1X, W2X, W2-, W4-, W8+, LW1X, LW2X, LW4-

(3) 参加国

南アフリカ、ドイツ、アルゼンチン、オーストラリア、カナダ、韓国、クロアチア、エストニア、アメリカ、フィンランド、イギリス、香港、ハンガリー、インド、イタリア、モナコ、ニュージーランド、オランダ、ポーランド、スロバキア、スリランカ、スイス、チェコ、中華人民共和国

(4) 開催地

Shanghai Water Sports Center

- ・各宿泊先(計3つのホテル)からの移動手段は主にバス
- ・コースは2000m直線(ギリギリ)
- ・コースと練習水域が分かれており(自転車用道路のある緑地で隔てられている)橋下(レース時は原則一方通行)を通って行き来できるようになっている。
- ・フィニッシュと栈橋がかなり近い。(弊害については後述する)
- ・2021年の世界選手権も同会場で開催される模様。
- ・ボート(及びカヤック)コース以外に他のスポーツ施設もある。



3. コース・各部署について

(1) 発艇

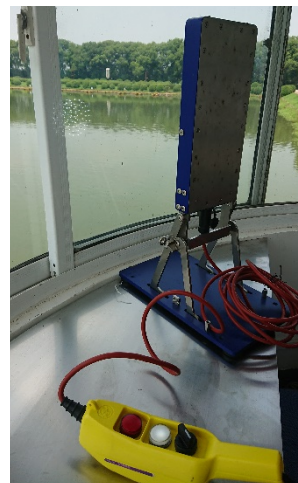


発艇台は簡易のもので、上に上がると若干心もとない感じがあったが、何より屋根が赤いのはいかなものかと思った。

練習水域は前述したように緑地で隔てられているため、出艇したクルーがどこにいるのか、審判は確認ができない。発艇定刻に遅れてくるクルーも多く、NTOがマーシャルをしてはいたが、効果は薄かった。また、練習水域からコースに入る際には発艇台の真横に出てくることになり、呼び込み後コースに入ってからバックローでつけるのだが、焦ったためかそのまま直進して発艇台のほうに向かってくるクルーもいくつかあり、慌てて発艇員が指示する場面も見られた。

トランシーバーを持った NTO が Start Bridge 上におり、足で Start Finger を操作したりイエローカードを提示したりする役割を担っていたが、イエローカードがすぐ近くになかったため、取りに行く間に Start Finger がボートホルダーごと流されるというアクシデントもあった。スタート時も、座りながら片手でイエローカードを掲げ、足で Start Finger を押さえているという状態であった。

(2) 線審



線審小屋は常設のものでしっかりした造りだが、業務にあたる上では問題ないもののやや狭いという印象。線審では、水平ポジションのツマミを左にひねると白ライト、右にひねると赤ライトが点灯するようになっており、操作しやすいと感じた。ただ、ライトは発艇台の方を向いていたため、コースの外（線審側）からコース内に入ってレースに追行する形になる主審艇には、ライトが確認しづらいという難点があった。

部署交代時は、最初の発艇補助が発艇を、線審が発艇補助を、発艇が線審を担当するというように、試合数に応じて2もしくは3交代制であった。

（3）主審

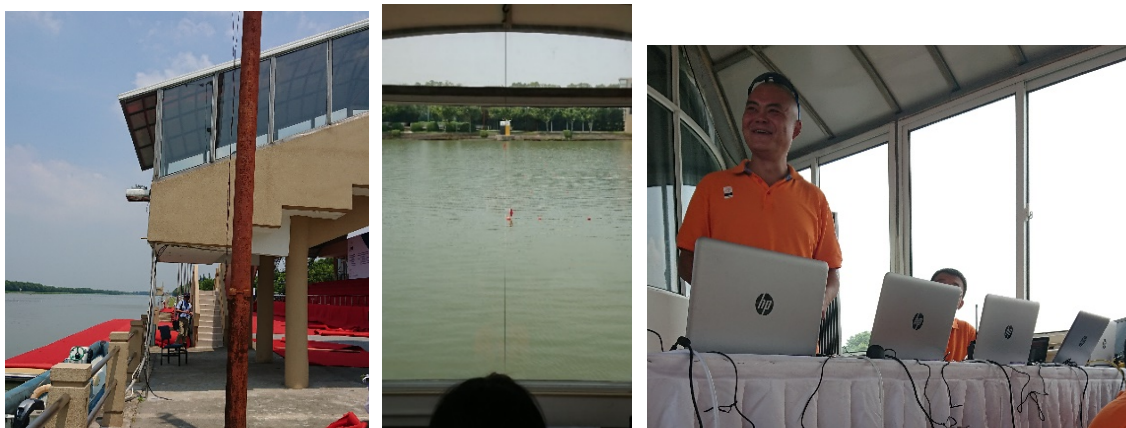


主審艇は屋根付きで、どうなのだろうかという思いもあったが、日差し（や雨）対策としては正直ありがたかった。

ドライバーは中国語しか話せず、意思疎通が難しかった。簡単な英語も理解が難しいようだったが、単語とジェスチャー、スマートフォンの中国語翻訳アプリを使って乗り切った。が、中には本来の配置とは全然違うところに移動してしまう主審艇も見られ、他の国際審判員も閉口していたようだった。

レース中は、かなり遅れるクルーがあったため、主審艇の位置取りにかなり悩まされた。ドライバーは、レースのかなり後方を走る傾向にある一方で、主審艇の波に対する意識がさほど高くなく、遅れているクルーの前をそのままの速度で斜め横断してしまうこともあった。回漕時にも、かなりのスピードで行けるところまで行こうとするので、「この地点で待機する」「ゆっくり」「止まって」などすべて指示した。人柄がよく、気も遣ってくれ、指示に忠実に従ってくれるドライバーだったので、私はやりやすかった。ただ、ブイの上を普通に走っていたので、巻き込んでしまうのではないかと日本での経験からひやひやさせられたが、そのようなアクシデントはなかった。

(4) 判定



室内の床は階段状になっている。

(5) 監視



出艇栈橋、帰艇栈橋ともに2つずつ。
詳細は監視業務の報告と併せて後述する。

(6) 艇計量・選手計量



栈橋を上がってすぐのところにある大テントが艇計量所で、クルーの誘導がしやすかった。横に救護の簡易テントが設置されていた。ボランティアが帰艇したクルーに氷を渡しに行ったり、体調不良を訴えたクルーがいれば艇計量所の中で休ませたりしていた。



選手計量は、艇庫の2階で行われていた模様。

(7) その他

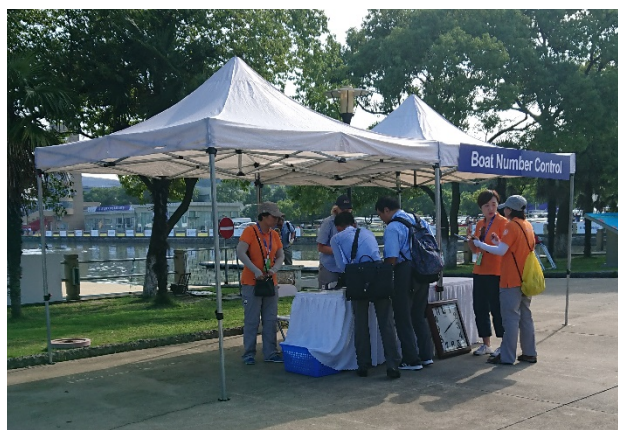
連絡ボックスと会議室



審判控室



受付



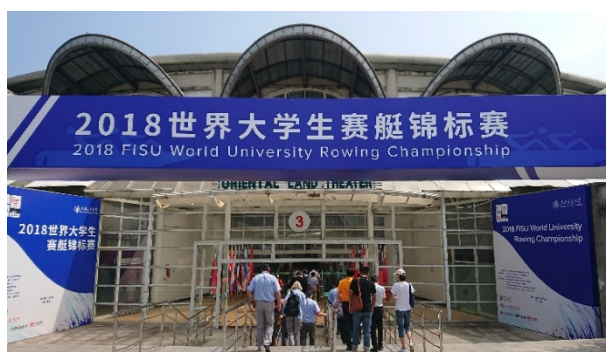
掲示板



艇置き場



開会式会場



開会式



記念品の判子 (LIANG Bing 審判長より)



4. 審判員について

(1) ITO

プログラムには審判長に加えて 18 名の ITO の名前が掲載されていたが、そこには FISA 審判委員である千田隆夫氏と Gabrielle Isenschmid-Weber 氏が含まれており、毎朝配られる部署配置の紙には 14 名の ITO の配置（主審 4 名、発艇 1 名、発艇補助 1 名、線審 1 名、判定長 1 名、判定 1 名、監視 長 1 名、出艇監視 1 名、帰艇監視 1 名、艇計量 1 名、選手計量 1 名）が示され、そこに FISA 審判委員が加わる形であった。2 人の FISA 審判委員は、必要に応じて審判業務にアドバイスを与え、また審判セミナー（合計で 4 時間程度）を実施した。また、Kris Grudt 氏が TD を務めていた。（Board of Jury は FISU の Technical Committee が担当した模様）

FISU 参加審判員リスト

World University Rowing Championships (FISU)

Shanghai (CHN)– 10-12 August 2018

President of the Jury

LIANG	Bing	CHN	1503
-------	------	-----	------

Members

MELBOURNE	Gregory	AUS	1490
-----------	---------	-----	------

HUANG	Rucong	CHN	1461
-------	--------	-----	------

BAIN	Gary	GBR	1528
------	------	-----	------

KILIAN	Frank	GER	1454
--------	-------	-----	------

CHEUNG	Kwok Keung	HKG	1626
--------	------------	-----	------

ZACCHIGNA	Luca	ITA	1588
-----------	------	-----	------

ICHIKAWA	Manami	JPN	1781
----------	--------	-----	------

TUN	Bo Bo	MYA	1705
-----	-------	-----	------

HATWELL	John	NZL	1552
---------	------	-----	------

MELNIKOV	Pavel	RUS	1669
----------	-------	-----	------

GOLOB	Darko	SLO	1211
-------	-------	-----	------

SPOOR	Humphrey	SUI	1603
-------	----------	-----	------

KHARDANI	Sahibi	TUN	1582
----------	--------	-----	------

FORSTER	Annette	USA	1664
---------	---------	-----	------

Spares

RAVENSBERGEN - VAN DER LELIJ	Jacomine	NED	1302	S1
------------------------------	----------	-----	------	----

HERRERO III	Ismael	PUR	1269	S2
-------------	--------	-----	------	----

(2) NTO 及びボランティア

プログラムにはリーダーを含めて 15 名の名前が記載されていた。ITO にも配られたオレンジ色のポロシャツを身に付けており、ボランティアと思われる人たちが着ている黄緑色のポロシャツと区別されていた。NTO は主審艇ドライバー、発艇のポンツーン操作、マーシャル、線審のアライナーや判定の写真判定及びボタン操作、受付及びバウナンバー配布、監視、艇計量などに配置されていた。

ボランティアがどれほど関わってくれていたかは定かではないが、ボートホルダーと、出艇・帰艇監視及び艇計量や表彰式への誘導などは、(NTO 監視長の指示のもと) ボランティアが行っていた。私を空港まで迎えに来てホテルまで案内をしてくれたのも黄緑色のポロシャツを着たボランティア(と運転手)であった。

5. 審判業務について

(1) 10 日 <主審>

初めての国際大会は、主審(しかも M1)でのデビューとなった。ところがこれがアクシデント盛りだくさんのレースであった。まず、800m 待機のはずの他の主審がドライバーとうまくコミュニケーションがとれず、0~100m に主審艇が 3 艇いる状態。一方、インドのクルーが 2 分前になっても現れない。ようやく現れてスタートにつけたところで Start Bridge 上の NTO がイエローカードを取りに移動したところ、その NTO が足で押さえていた Start Finger も外れてしまい、ボートホルダーごと流されるという見たことのない事態が発生。クルーがバックローをして艇及び Start Finger をつけ直し、無事スタート…と思いきや、今度は中国クルーが明らかなフォルススタートをしてスタートやり直し…と、何ともバタバタの第 1 レースとなった。ちなみにイエローカードは警告時に一度あげただけで、スタート時には Start Bridge 上に放置された状態になっていた。

とにもかかわらずレース初日が始まったわけだが、クルーの力量差が大きく、最下位のクルーが 200m くらい離れてしまうこともまもあり、主審艇の位置取りを考えながら、ドライバーに随時指示を出すことになった。また、前述したように、線審の白ライトが発艇台のほうを向いていて、0m 以降では確認ができなかったため、前のレースで全クルーがゴールした後急いで戻ったものの 0m より発艇側に行けなかったときには、線審のライトが主審艇から全く確認できず困った。

何より、ゴール後主審艇の白旗を確認することなく、勝手に栈橋に戻るクルーが多く、かなり遅れたクルーがゴールするのを待って白旗をあげる頃には、他のクルーの艇はすでに水からあがっているときもあり、赤旗があがったときはいったいどうなるのだろうか不安になった。実際、別日に他の主審が赤旗をあげたレースがあったが、栈橋に戻ってしまった他のクルーにはその状況は伝わっていなかったのではないかと思う。(クルーの異議は却下されたので事なきを得た。)

いろいろと大変なところもあったが、初めての国際大会の主審で、各国の選手が競い合う様子を間近で見ることができ、非常に楽しかった。他の国際審判員も私を気にかけてくれ、良い経験ができたと思える国際大会審判デビューとなった。

(2) 11 日＜帰艇監視＞

レースが始まるまでは、出艇監視を手伝った。出艇直後に沈をした男子ペアクルー（すぐに乗り直して再度出艇）や、バウナンバーホルダーの隙間が空きすぎていてバウナンバーが固定できない艇（探し回って見つけたテープでバウナンバーをぐるぐる巻きにして厚さを出し、さらにテープで固定して対応）など、アクシデントもあったが、だいたい問題なく出艇していった。

レースが始まると、本来の帰艇監視業務に就いた。初日同様ゴール後そのまま栈橋に戻ってくるクルーが多く、一応主審艇の旗を見るよう促したが、クルーはあまり気にとめていないようであった。

また、艇計量クルーを記載した紙は ITO しか持っていないため、帰艇栈橋担当の NTO が次の艇計量対象クルーを随時確認してくる形だったのだが、クルーが艇を水からあげないうちに艇計量の指示を勝手にしてしまい、どうしたものかと悩んだ。艇計量対象クルーへの指示は私がするからと伝えたが、艇計量所への誘導担当とは別に帰艇栈橋担当のボランティアもいたため、彼らの仕事がなくなってしまう。艇を見ておいてもらうだけにすべきかとも悩んだが、艇計量対象クルーが 2 艇ある際には、栈橋が 2 つある上にクルーの戻ってくるタイミングもバラバラで、彼らの協力は不可欠である。艇計量の指示をどのタイミングですべきかとその理由を NTO や英語の分かるボランティアに何とか説明し、理解してもらうことができてからはスムーズに業務を進めることができた。

もう一つ気になったのは、選手計量を終え監視の応援に来た他の国際審判員が、レース後栈橋に艇を着けるクルーを手伝っていたことである。私自身、選手に手伝いを頼まれたこともあったが、理由を伝えて断り、やってきたボランティアに任せた。審判の選手への対応が国によって異なる事例だと感じた。

(3) 12 日＜出艇監視＞

最終日の最初のレースでは、発艇定刻 15 分前まで出艇桟橋にこないクルーがいた。焦って監視長に伝え、受付に確認をしたり、やっと来たクルーを追い立てたりしながら最終日の業務は始まった。バウナンバーをつけ忘れて（受付でもいい忘れて？）くるクルーや ID を忘れてくるクルー、ヒールロープがついていない艇もあり、出艇桟橋は慌ただしかった。一方の桟橋で、問題があると NTO が呼ぶので行ってみると、ヒールロープ代わりに結束バンドが使われている艇があった。初めて見たのでこれはどうなのかと思い、別の国際審判員に尋ねると、しっかり固定されるから OK だという答えが返ってきてなるほどと思った。

近付いてきていた台風の影響だったのか、雨風が強くなる場面があり、ID 確認のために持っていた Start List が雨で濡れて業務が困難になった。当初は私も桟橋に出てクルーを確認していたのだが、途中から私が監視用テントの中に待機し、クルーや艇を確認した NTO から報告をもらうという形になった。

さらに大変だったのは、出艇したいくつかのクルーが艇の故障（艇やオールのネジがゆるむ）で戻ってきたことだった。ただでさえ発艇定刻に遅れるクルーが多い状況であったため気を揉んだのだが、最終レースが一番焦らされた。まず、最終レース一つ手前のイタリア女子 8+が出艇後に戻ってきて、他のレース艇がどんどん戻ってくる中で何も言わず帰艇桟橋につけようとしていた。ネジがゆるんでいるとのことで、出艇桟橋を NTO に任せてそのクルーの対応をしていると、最終レースのイタリア男子 8+が気付けば帰艇桟橋から出艇しようとしていた。慌てて出艇桟橋から出るよう指示をすると、別の国際審判員からの指示であると言われ、どういう状況なのかがさっぱり分からない。後から、そのクルーの Cox が 3 レース前の女子 2x の選手であることが分かり、監視の応援に来た国際審判員が時間短縮のために指示したのだろうと考えたが、正直情報共有させてほしかった。ダメ押しだったのは、さらにもう 1 つポーランド男子 8+が練習水域から戻ってきて、ラダーがきかないとの訴え。確認すると修理にはドライバーが必要であったが、彼らは持っていないし桟橋周辺にも工具はない。慌てて走り回り、結局どこかのコーチから借りて対応した。余談だが前日の出艇桟橋での経験からリュックに入れておいた養生テープが他の部署で必要とされる場面もあり、いろいろ準備しておくにこしたことはないと感じた。

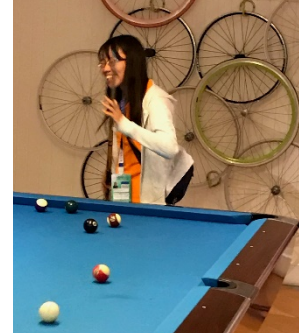
何とか全艇の出艇を確認した後は、表彰クルー用桟橋につけられない 8+の表彰クルーの誘導を手伝った。抱き合って喜び、他国のクルーと握手を交わす姿は国際大会であるからこそそのグッとくる光景だった。

今回の大会は国内の大会と日程が近いこともあってか日本からの出場クルーはなかったが、自分が大学で漕手だったこともあり、ぜひ日本の大学クルーが世界で活躍する姿を間近で見たいと感じた。

6. 終わりに

初めての国際大会参加かつ英語力も不安な状態で、内心どうなるやらと思っていたが、いざ審判業務となるとすべきことははっきりしていて、他の国際審判や NTO と連携したり、自分なりに考えて動いたりすることもでき、国内で培ってきたものはきちんと力になっているのだと思えた。

夕食後など業務外のお喋りは、私の英語力ではなかなか辛いところもあったが、数人の国際審判員とビリヤードを楽しんだり、特に仲良くなった方（英語圏ではない方）と簡単なお喋りをしたりと、楽しく過ごすこともできた。また、シンガポールで出会った国際審判員と再会したり、仲良くなった国際審判員が実はオリンピックメダリストだったりと素敵な出会いがあったこと、何より、世界各国の選手が全力を出し合い、健闘を称え合う、国際大会ならではの魅力を十分に感じる事ができたことが幸せだった。



最後になりましたが、本大会参加の機会をいただいて国際審判員として無事にスタートを切れましたこと、関係各位に心よりお礼申し上げます。また、大会参加にあたっての手続きのフォロー役、現地での心の拠り所となってくださいました千田氏に感謝申し上げます。今後もできる限り様々な大会を経験し、国内でも国外でも活躍できる審判員となれるよう（各種手続きや書類関係、迅速なレスポンスについても）努力していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

